

私の留学の目的は、二つありました。

一つは、“北欧の教育”を自分の目で確かめることです。ニュースなどでも目にすることがありますが、北欧の教育のレベルが高いと大学の授業で聞いたことがあり、それを自分の目で確かめたいと思ったことがノルウェーへ留学したいと思ったきっかけです。また、自分の専門領域から離れた授業を受けることも目的の一つです。教育大は、その特質や規模の問題で受たい授業が受けられないことがあったので、せっかく英語で授業を受けるなら他のことも勉強したいと考え、ベルゲン大学に決めました。

春学期には、自分の興味があったデジタルアートに関する授業や、ノルウェー語の授業を履修しました。秋学期では、北欧の教育システムについての授業と、北欧の文化や歴史についての授業を履修していました。教育に関する知識だけでなく、その文化的・歴史的な背景も共に学ぶことで、より北欧の教育に対する理解を深めることができました。

### 課外活動

学外では、学生団体が運営するライブハウス(Hulen)でボランティア活動をしていました。日本での音楽に関する経験や知識をより専門的かつ実践的なものにするため、ステージクルーとしての活動に参加していて、ステージ上の機材の管理や、出演するアーティストのサポートなどを行っていました。



また、市の野球チームにも参加しました。私がノルウェーで経験したものの中では、これが一番印象に残っています。学生だけでなく、社会人も参加しているチームで、ノルウェーだけでなく、アメリカやチリなど、様々なバックグラウンドを持つ人々が所属していました。試合を行うために国内各地に旅行したり、様々な言語(英語・スペイン語・ノルウェー語・日本語)が飛び交ったりする中で野球をすることは、大きな思い出になったと共に、自分の中での異文化理解に強く影響を与えています。野球において特に面白かったことが二つあります。一つは、自分が“助っ人外国人”だったことです。小学校5～6年までの2年間しか野球経験がなく、硬式のボールを扱うのは初めてだったのですが、打撃面で活躍することができました。体格や性格、運動能力で他の選手に劣等感を感じていた私にとって、外国人投手相手にヒットを打てた時の快感は言い表すのが難しいほどのものでした。もう一つは、サインを使わず日本語で指示をもらう場面があったことです。日本に20年以上住んでいたことのあるノルウェー人の方が、バントや盗塁の指示を日本語で出してくれていました。普通は言葉に発すると相手チームにバレてしまうためありえないのですが、

相手が日本語を聞いてもわからないためできたことです。言語を道具としてうまく使うとこんなことまで可能になるのだということに気づけた瞬間でした。

## 生活

Fantoftというところに住みます。多くの留学生（少なくとも日本人留学生のほとんど）は、ここに入ることとなります。入学時、様々な場所から選ぶことになっていてわからなかったのですが、どういう希望を出していても結局はここにされたという話を周りからよく聞きました。割り当てが決まった後でも、着いてから鍵をもらうタイミングで部屋を変えてもらえることもできるようなので、希望していた場所・部屋の種類にどうしても入りたいという人は挑戦してみてください。なお、住居関係についてはsammenという大学生協のような機関が管理しています。詳しくは申請用サイト(<https://bo.sammen.no/>)を見てみてください。部屋の写真などついているので、具体的なイメージがつきやすいです。

私が住んだのはbachelor apartment/共用スペースのない一人部屋でした。誰もが通る道なのですが、初日はベッド以外家具が一切ないのでコートを被って寝ました。2日目以降になんとか日本人と連絡をとり、前学期の学生が置いていった家具を受け取っていきます。最終的にはたくさん物をもたらえて充実した（押し付けられた使いどころに困る物で溢れかえった）部屋となりました。他には、各階に二つあるキッチンで10名程度で共有する形だったり、キッチンとバスルームを2人で共有する部屋だったり、いろいろな種類の住み方があります。その辺りの情報も上記のサイトで得られますので、是非ご確認ください。

### 交通機関について

空港(Bergen lufthavn)から中心街(Byparken)まで路面電車が通っています。真ん中あたりにFantoftがあり、大学は中心街から徒歩5分くらいのところにあります。通学時間は約30分でした。平日はほぼ5分に一本、早朝から深夜1時くらいまでずっと動いていて、金土は4時あたりまで動いている大変便利な交通機関でした。空港までもほぼ徒歩なしで30分くらいで行けるので、旅行に行くときは助かりました。

## 就職活動と旅行について

他に私が時間をかけていたのは就職活動と旅行です。

民間就職を志望していた私は、周りに就活をする友人がいないこと・留学に行くため就活が本格的になる前にインターンシップ等に参加できないことを懸念していました。しかし、留学先で出会った友人のおかげで、就活についての情報を得ることができ、実際に面接を受けるところまで留学中に経験することができました。ベルゲン大学に来ていた日本人は、早稲田・慶応・同志社・立命館・秋田国際教養大学(AIU)など、これまでは会う機会がなかったであろう人たちでした。海外に行ってまで日本人かと思う気持ちもありましたが、彼らも自分と全く異なるバックグラウンドを持っていて、外国人の話聞くのと同じくらい自分にとっては新鮮で、興味深かったです。そんな中、キャリアフォーラム(<https://careerforum.net/ja/>)というイベントが各地で開催されていることを知りました。留学生を対象とした合同説明会のようなイベントですが、選考も同時に行われていて、企業によっては会期中に内定まで出るというものでした。5月にロンドン・11月にボストンで開催されていたので、どちらも参加しました。内定はもらえませんでした。留学中にこのようなイベントに参加できたこと自体が自分にとって大きな経験となりました。

そんなこともあり、ロンドンやボストン、就活以外ではアムステルダムやプラハなど、飛行機に乗ってどこかに行くことが多くありました。シェンゲン協定によりヨーロッパはだいたいの国もパスポートコントロールを通らずに行き来することが可能です。距離ではないところでも近さ

を感じ、羨ましく思いました。有名な絵画・景色を見ることができたり、食べたかったものが食べられたりなど、楽しいこともたくさんありましたが、自分の無知さ、能力のなさに気がついたり、差別的行為を受けたりするなど、暗い気持ちになることもありました。まずは無事に旅行を終えられた幸運に感謝していますが、良いことも悪いことも含めて、旅行してよかったと感じています。

北海道教育大学にいろいろ自信がないけど留学に興味を持った、これを見てくれた人に向けて、メッセージを書きます。

留学に向けて自信がないならば是非ベルゲンに行ってください。とにかく居心地がいいです。治安が日本よりいいんじゃないかと思うくらい平和な街です。男女平等世界一なので、その他の多様性問題にもとても寛容です。ノルウェー人はおとなしい性格が日本人にとっても似ているので気が合います。ほとんどの人が英語を話せます。物価は高いけど貸与・給付の奨学金で留学中はなんとかなるし、自炊すれば日本と変わりません。日本人学生がいっぱいいるし日本語話せるor勉強しているノルウェー人もいるので勉強も助けてもらいやすいです。売ってるもので日本食も作れます。水！水は札幌より硬度が低く、塩素を使ってないので水道水が美味しいです。札幌からヘルシンキ(フィンランド)までフィンエアーが2019年12月から冬季限定で飛びます。ヘルシンキからベルゲンは定期便があるので、ワンストップで行けるようになります。いざとなればベルゲンからなら片道5万円未満で札幌まで帰って来れます(finnairのyouth価格)。

学校での英語については、授業にもよりますができるだけ平易な英語でゆっくりと喋ってくれる先生が多いと思います。聞き取れないとか理解できないと言って見下したり馬鹿にしたりするような人はいないので、臆せず聞けば誰でも優しく教えてくれます。なのであまり心配しないでください。なにせよ、はるばる日本から来た留学生のことは多くの人が珍しがって興味を持ってくれます。そのチャンスを逃さず、人と関わる機会をたくさん作るといいと思います。ぜひホクホクしてください。あと、うまく授業をとれば、週末にヨーロッパ周遊できるのでその辺も考えてみてはいかがでしょうか。

距離的にも文化的にも遠い国ですが、だからこそ、なんとなく留学してみたいという気持ちがある人にオススメしたいです。留学に行くことが間違いになるかどうかはその人の考え方・行動次第です。それならば、まずは申し込む/行ってみるといったところから始めてみませんか。

